

「未来をつくるために」(45~50分)

対象/中学生・高校生

1. プログラムの趣旨

青少年赤十字の実践目標の中には『健康・安全』、また態度目標には『気づき・考え・実行する』がある。これらの目標のもと、「防災教育」を通して様々な災害から青少年の健康と安全を自らが守る方法を学び、さらにはそこから家庭や地域住民とともに防災意識を高め、広めることで『人間のいのちと健康、尊厳を守る』ことを目的とする。そして子供たちは『未来をつくる希望』をもつことが大切だと考える。

どのような未来をつくるのか、ペイントのメッセージに込められた思いを考え、また友人たちとその考えを共有し未来について話し合うことで、あらためて『いのち』をみつめ、『生き抜く力』を育てる教材にしたいと考え、設定した。

2. ねらい

私たちはどのような未来をつくっていくのだろうか。1枚の写真を見て考えてみることを、想像し、思いやり、そしてグループで話し合ってみることを目標とする。ペイントのメッセージに込められた思いを読み取り、『いのち』の大切さを考えるところから自分がどのような未来を描くのか、友人たちはどのような未来を思い描くのか、一人ひとりが自分の思いを話し受容しあうことで自らが未来をつくる主役であることを感じるようにする。

3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (3分)	①考えてみよう。メッセージに込められた思いとは？ ～1枚の写真『We will stand strong again』～ ※「ことば」の力について。今までで一番心に響いた言葉やフレーズがあるか聞いてみる。	・自由に回答させる。きっかけなので、回答がでなければ、次にすすんで構わない。 ・本時は1枚の写真、またそのメッセージに込められた思いについて考える時間とすることを話す。
展開 (7分)	②1枚の写真のみで考えよう。 ～メッセージに込められた思いとは？～ 写真を見て考える→プリントに記入(個人活動)。 ・どんな場面の写真ですか？ ・どんな思いのメッセージでしょうか？ ・どんなことを考えましたか？	・個人での記入がなかなか進まない生徒には「ここには何があったのか」「なぜペイントされているのか」などと声をかけ考えるきっかけを与える。 ・英語の単語を一つひとつ訳していく、などできるだけ考えさせたい。(最初から全文を訳させずに)
(15～20分)	③話し合ってみよう。 ・写真を見て考えたことを話し合う→プリントに記入。(グループ活動) どんな場面の写真ですか？ ・どんな思いのメッセージでしょうか？ ・どんなことを考えましたか？	・グループで自由に話し合えるよう、様子をみて支援する。 正解があるのではなく、感じたことをそれぞれ出し合うことが大切であるということを伝える。
(15分)	④未来へのメッセージをつくらう。 ⑤未来へのメッセージをみんなに発表しよう。	・写真の状況を探ることが目的ではなく、それぞれがどのように考えたかを出し合うことが重要と伝える。 ・この写真から、自分だったらどのような未来をつくるか、自分の思いをこめたメッセージを作ってみよう促す。 ・自分で考えた未来、そのメッセージをみんなに聞いてもらおう、聞く側はきちんと聴く雰囲気大切に。 (解説を入れる：写真の背景) 2011年3月11日の東日本大震災で福島県いわき市の海岸地域も大きな津波被害を受けました。7mにも及ぶ津波は多くの人々の命や家々を奪い去りました。流されてしまった家のあとにボランティアの人が「再び、強く立ち上がる」という思いを込めてペインティングをしました。
まとめ (5分)	⑥感想	・1枚の写真から震災について考えたり、メッセージを描いた人の気持ちを考えたりして、未来について、自分の感想を自由に書くよう支援する。



プリント

『未来をつくるために』
～1枚の写真 『We will stand strong again』～

(1) 考えてみよう。メッセージに込められた思いとは？

① どんな場面の写真ですか？

② どんな思いのメッセージでしょうか？

③ どんなことを考えましたか？

(2) 話し合ってみよう

① どんな場面の写真ですか？

② どんな思いのメッセージでしょうか？

③ どんなことを考えましたか？

(3) 未来へのメッセージをつくろう

(4) 感想を書こう